

EU Indicators

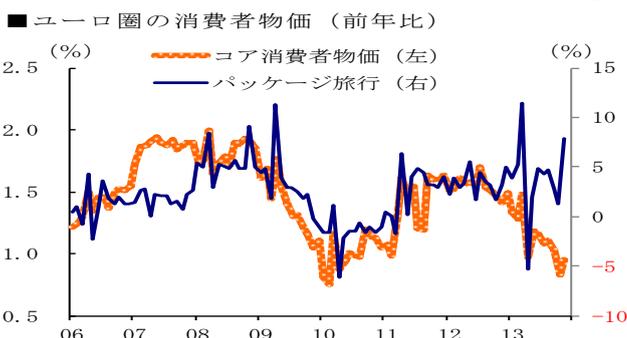
欧州経済指標コメント：11月ユーロ圏消費者物価(確報)

発表日：2013年12月18日(水)

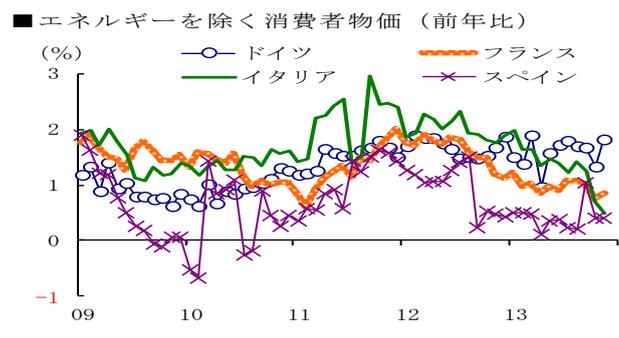
～年明けの12月の物価速報に注目～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 17日に発表された11月のユーロ圏の消費者物価の確報値（EU統一基準）は速報時点から不変の前年比+0.9%。デフレ懸念が高まった10月の同+0.7%から、上昇率がやや加速した。内訳をみると、食料品の上昇率が縮小（前月：同+1.4%→今月：同+1.1%）したものの、エネルギー価格の下落率が縮小（同▲1.7%→同▲1.1%）したことや、コア物価（変動の大きいエネルギー・食料・アルコール・タバコを除く）の上昇率が拡大（同+0.8%→同+0.9%）したことが全体の計数を押し上げた。
- コア物価の内訳は、衣服・履物（同+0.5%→同▲0.1%）が2011年8月以来の下落に転じた一方、通信（同▲4.0%→同▲3.3%）が前年同月の裏もあり下落幅が縮小、教養・娯楽（同+0.2%→同+1.3%）がパッケージ旅行の上振れ（同+1.2%→同+7.9%）により上昇率が加速した。パッケージ旅行は単価のロットが大きく、月毎の振れが大きいことで知られている（左図）。10月が下振れ、11月が上振れしたことで、物価計数の攪乱要因となっている。11月の上昇率がこのまま続く公算は小さく、12月（1月7日に速報値が発表）は物価の上昇率に再び下押し圧力が働きやすい状況が予想される。
- 国別のコア物価をみると（右図）、フランス（同+0.9%→同+1.0%）、ドイツ（同+1.0%→同+1.7%）、スペイン（同▲0.1%→同▲0.0%）などで上昇率が加速ないし下落率が縮小した一方、ギリシャ（同▲2.9%→同▲4.3%）、イタリア（同+1.2%→同+1.1%）、オランダ（同+1.7%→同+1.6%）、ポルトガル（同+0.3%→同+0.0%）などで上昇率が縮小ないし下落率が拡大した。ドイツの上振れは前述のパッケージ旅行による影響が大きい。



出所：Eurostat



注：税制変更による影響を除いた指数
 出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2012				2013				2013			
	4Q	1Q	2Q	3Q	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
消費者物価（前期比）	0.4	0.4	0.1	0.5	-0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	-0.2	0.0
（前年比）	2.3	1.9	1.4	1.3	1.2	1.4	1.6	1.6	1.3	1.1	0.7	0.9
コア消費者物価（前年比）	1.5	1.4	1.1	1.1	1.0	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9
食料品（前年比）	2.9	2.6	3.0	2.8	2.7	3.2	3.2	3.3	3.0	2.2	1.4	1.1
アルコール（前年比）	2.8	2.6	2.8	2.6	2.8	2.6	2.9	2.7	2.5	2.5	2.7	2.7
タバコ（前年比）	4.4	4.6	3.9	5.2	4.1	3.8	3.7	4.9	5.4	5.4	4.0	4.0
エネルギー（前年比）	6.3	3.2	0.3	0.1	-0.4	-0.2	1.6	1.6	-0.3	-0.9	-1.7	-1.1

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。 出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。